

## 開 会 挨拶



放送と青少年に関する委員会委員長 汐見 稔幸

皆様、ようこそおいでくださいました。BPO・青少年委員会委員長の汐見と申します。ご承知のとおりBPOは、放送倫理と番組の向上のためにどのような努力をしていけばいいのか、さまざまに議論している機構ですが、そこで主に念頭においているメディアはテレビです。

ところが、最近の若い世代はテレビへの向き合い方が変わってきて、多様なメディアの中のひとつとして扱う、そういう態度がかなり顕著になってきました。インターネット（www）が一般に汎用化されたのが1991年だったと思いますが、まだ20年経ってはいません。インターネットが一般化されて以来、私たちの周りのメディア環境は著しく多様化してきました。1990年前後、あるいはそれ以降に生まれた世代は、物心ついた頃から家庭にパソコンがあり、さらに携帯電話もあって、メールのやりとりをするということがいわば当たり前になってきている。その機能がさらに向上し、多様化している。

その中で、テレビの位置づけが若い世代の中で微妙に変わってきているわけです。今回は、生まれた時からデジタル的なメディア環境に取り囲まれている世代を取り上げ、日常的にテレビとどう接しているのかを丁寧に調査しました。その中から見えてくるものを、私たちはどう評価すればいいのか。そして、この世代がやがて日本の中心になっていくわけですが、その時代にテレビというものがどういう位置づけに変わっていくのか。そのあたりについて集中して議論してみたいというのが、今回のシンポジウムの趣旨です。

まず第1部で、“デジタルネイティブ”という16歳から24歳の世代を対象とした調査の結果を発表し、それを受け、メディアと人間の関係がこれからどう変容してくのか、第2部でじっくり議論してみたいと思っています。長時間ではありますが、このシンポジウムが実りのある見解を出せるよう、私たちも努力したいと思いますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

# 目 次

## 第 1 部・調査研究発表 ..... 1

### 「“デジタルネイティブ” はテレビをどう見ているか？ ～番組視聴実態 300 人調査～」報告

報 告 者：橋元良明（東京大学大学院教授・調査チームリーダー）

## 第 2 部・パネルディスカッション ..... 25

### 「“デジタルネイティブ” がテレビを変える！ ～テレビ近未来への提言～」

パネリスト：今野 勉（演出家・テレビマンユニオン副会長）

たむらようこ（放送作家）

荻上 チキ（評論家・メディアプランナー）

橋元 良明（東京大学大学院教授・調査チームリーダー）

汐見 稔幸（青少年委員会委員長・白梅学園大学学長）

司 会：小室広佐子（東京国際大学准教授・調査チームメンバー）